

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 お待たせをいたしました。定刻の時間となりましたので、10月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初にお知らせを申し上げます。記者クラブの方に異動がございました。それで本日初めてこの会見に参加されます方がお二人でございます。紹介させていただきます。読売新聞敦賀支局長の木下様でございます。木下さん、一言ごあいさつをお願い申し上げます。

【記者】 先月に敦賀支局に来ました木下です。福井で仕事をする人が多いので余りこちらには来ていなかったのですが、今月から本格的にこちらで仕事をさせていただきます。実は敦賀通信部とっていた頃に15年前にこちらにおりましたので敦賀は2回目になりますけれども、また一から勉強をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。続きましてNHK嶺南報道室の重田様でございます。重田様、一言お願いいたします。

【記者】 NHKの重田と申します。先月4日より着任いたしました。前は福井にいたんですけれども、余り敦賀には来たことはなかったので右も左もわからない状態ですが、つつこつ、一つ一つ覚えていこうと思っておりますので、ぜひよろしくをお願いいたします。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それから市側にも異動がございました。吉田教育長が先月末日、任期満了により退任されました。その後任に10月1日付をもって下野教育長が就任いたしております。本日この会見に下野教育長がお見えですので、一言ごあいさつをお願いいたします。

【教育長】 下野弘喜です。どうかよろしくをお願いいたします。私も教育行政、そういったものに対してこれから一から勉強していきたい、そんなふうに思っておりますので、また皆さん方からもご指導、ご鞭撻をいただきながら頑張っていきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

毎回申し上げますが、この会見につきましては、市のホームページ上で公開するなどにより録音をいたしております。発言の内容をより鮮明にするために、発言をされる場合は必ずお手元のマイクを使用しての発言をお願いいたします。発言の際はマイクのスイッチを入れていただき、発言をお願いするとともに、発言が終わりましたらスイッチを切っていただきたいと思っております。なお、マイクのスイッチは下のほうにありますシルバー、銀色のボタンとなっておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

本日の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、最初は事業発表についてお願いいたします。事業発表の質疑終了の後に次第の3番目フリーの質疑応答へと進めたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

なお、終了は1時間後、14時30分を予定いたしておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、市長、よろしく申し上げます。

【市長】 それでは、10月定例記者会見ということで、皆さん方には大変お疲れさまでございます。

今年もあと3カ月というふうになったところでございます。いろんな課題を敦賀市も抱えておりますけれども、議会でいろいろとご指摘もいただいております。そういうことを十分に踏まえながら、一歩ずつしっかりと、今年残り3カ月を頑張っていきたいなというふうに思っているところであります。

新政権も発足をいたしまして、約2週間、もう2週間以上たったわけでございますけれども、次々といろんな政策実行ということで大変頑張っておられるわけでございますが、まだまだ私ども地方にとりましては分かりにくいところもありますので、そのあたりを明確にさせていただいて活力のある日本をつくっていただきたい、このように願っているところであります。

特に私ども原子力を持っているという関係もございまして、いろいろと立地地域というのはどうなるかなという不安もありましたけれども、文科大臣また経産大臣におきまして

も原子力の推進というのはしっかりやるというようなご発言もいただいておりますので、そういうまた国の皆さん方としっかり連携をとりながら努力をしていきたい、このようにも思っているところであります。

10月もいろいろ諸行事たくさんございます。ぜひ多くの方が訪れていただけるまち、そして受け皿をしっかりやっていく整備、引き続いて私ども頑張っまいりますので、また記者の皆さん方のいろんなご指導をお願いしたい、このように存じます。

それでは、あと座りまして、項目のほうから順次説明をさせていただきます。

まず1番目、敦賀湾フェリークルージングでありまして、私ども港町でありますから、港にあのような客船が常に定期的に出るのが理想であります。なかなかそうもありません。また、いろんなお客様のニーズの中で船はいいなというお話もいただいておりますので、敦賀港のPRも兼ねながら、今年は特に開港110周年の年でもございましたので、フェリーのクルージングを過去2回やりまして、今度最後の企画でございます。お手元にお配りしておりますとおり、このような形で敦賀湾クルーズを行います。過去2回もかなり好評をいただいております。それぞれ喜んでいただいたというふうに思っております。最後になりまして、あとは季節的には10月になりますのでお天気のほう、この時分は統計的にはいい天気のとときでありますので、ぜひ好天の中で実施ができることを期待いたしているところでございます。

次に、観光物産フェアであります。これにつきましては、17日の土曜日、そして18日の日曜日、ちょうど敦賀マラソンと同じ時期に合わせてやります。敦賀マラソンのほうもかなり過去最高の応募があったということでありまして、これはまた後ほど詳細は説明させていただきますけれども、それとあわせながら多くの地域の、また他の市町の方にも来ていただきまして物産フェアを行っていきなというふうに思っております。これも恒例でございますけれども、かなり毎年たくさんの方に来ていただいておりますが、今年も盛大に開催をしていきたい、このように思っているところでございます。

次に3番目、敦賀さくらの里オーナー募集であります。これもマスコミの皆さん方には何度か取材に来ていただいておりますので、ご承知だというふうに存じます。今回が最後、3回目でありますけれども、最後の募集というふうになります。現在はオーナーの方が623人。桜が872本。24種類の桜が植栽をされているところでございます。今年も22年の3月、今年度ですね。22年の3月に第3回の植栽会を実施する予定でございます。私ども予定が一応1,000本ということでありましたけれども、それは今回300本でありますので、オーバーできるのかなというふうに期待をいたしているところでございます。あとの要旨等につきましては、お配りをしたとおりでございます。

次に、第22回「奥の細道」敦賀サミットであります。明日から開催されます。敦賀におきましては、松尾芭蕉が杖を置いていったという杖措きの地ということでも知らせておりますし、一番多くの句も詠んだというふうに言われているところでございます。そういう意味で、芭蕉ゆかりの地ということでもそれぞれの地域がありますけれども、芭蕉にゆかりのある地域の皆さん方にお集まりいただいて、いま一度芭蕉の足跡をたどりながら、また芭蕉のことをいろいろ絡めた地域おこし等も進めていこうという一つのサミットでございます。全国各地から人数的には関係者ということでもありますので、その会議は約50名ほどであります。あとはいろんな講演会、お配りしておりますとおりの講演会等を開催し、多くの市民の皆さん方にも親しんでいただける、楽しんでいただけるものにしたい、このように思っているところでございます。

先ほど触れましたが、5番目、第30回敦賀マラソン大会でございます。過去最高の登録をいただいているということで、今回野口みずきさんがちょうど一緒に走っていただけることでありまして、そういう人気もいただいたのかなというふうに思っているところでございます。従来は松原から立石、立石までは行きませんでしたけれども、海岸コースもつくっておったんですけれども、今は市街地の中を、この四、五年そっちで行っておりますが、そのような形で、街の商店街の皆さん方にも応援をしていただける、そして最後は氣比神宮の大鳥居を目指して走るというコースを設定をさせていただきました。これもお天気を何とかいいものになるように願っているところでございます。今年から10キロの部で50歳以上という部門を設けたということでございます。また詳細等につきましては、お手

元のパンフレットのとおりでございます。よろしく願いいたします。

以上です。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いただきました5項目につきまして、まず幹事社のほうから質問を受けたいと思います。

【記者】 あいさつの中身、聞いてもいいんですけど。

新政権の原子力の推進ということをおっしゃったんですが、早速、川内原発の増設について、社民党が反原発の立場から必ずしも賛成できないということを言っていて、早速、原子力行政に対しての連立政権内の観点の違いというのが表に出てきたところですけども、その点について、どう考えているのかというのを教えてください。

【市長】 まず、これは政権が発足する前から言われておりました。連立協議をしている中でも、そういうどうしても民主党と社民党と合わない部分、原子力もそうでありますけれども、いろんな外交、防衛問題についても合わないところがあるということは承知をいたしておりました。ただ、社民党も福島さんが党首でありますけれども、閣内に入られたわけでございますけれども、そのあたりは連立の中で、社民党さんがだめだから全部やめるのかということとは私はないというふうに思います。あくまでも社民党の立場で発言をされているところでありますので。現に民主党の経済産業省の直嶋大臣、また文部科学省の川端大臣におかれましての発言等々を伺っておりますときに、そういう面では特に鳩山総理が25%のCO₂削減というのを明確に国連の場で発表したわけでございます。このことは大変重いわけでありまして、それを実現していこうと思うとこれは原子力抜きに考えられないわけでありまして、そういう点から総理の発言を重く受けとめながら、恐らく原子力行政については社民党の閣内のいろんな説明もされながら、私は反対されたからそれがすべてストップするなんてとても考えておりません。

【記者】 それに関連して、先日知事が両方の大臣のところに行きましたけれども、全原協として行くお考えがありますか。もし行くんだしたら、どういうことを言おうと思っておりますか。

【市長】 実は全原協の役員会が5日、6日、宮城県の女川で開催がされます。そういう中で今の政権に対するいろんな要望でありますとか、またそれぞれの大臣に対する要望、全原協という立場で、やはりこれはいろいろお話もさせていただかなくてはならんというような結論になってくるのではなかろうかなというふうに思っておりますので、役員会が終了してから、またそれぞれの地域の皆さん方の声を集約して、またその声として、恐らく私がまた代表してなり役員とともに訪問させていただく時期はあるんじゃないかなというふうに思います。

【広報広聴課長】 それでは各社質問がありましたら、発表事項等、あいさつ等を含めまして質問を受けます。いかがでしょうか。

【記者】 敦賀湾クルーズでランチバイキング。ランチの中身は何なんですか。多分これ一番関心があると思うんですよ。わざわざ敦賀でやるのに北海道の味覚満載と書いてあるんですけども、なぜ敦賀の味覚ではないんですか。

【市長】 私も思うんですけども、敦賀の人は敦賀の味覚は普段味わっておりますから、やはり市民の皆さん方にいたしますと北海道の味覚。また、これ募集していますから多くの方も北海道の味覚。これはもうフェリーで週10便、船が走っているわけでありまして、そういう観点から一つの目玉的な要素で北海道の味覚というふうに出されたんじゃないかなと思います。近場の人は敦賀の味覚を普段よく知っているというふうに思っております。じゃないかなというふうに思っております。

【記者】 観光物産フェアなんですが、緑地、今まで使わなかったというか、今回事故が起ってから初めて緑地使うんですかね。芝生で遊ぼうとか、館外でフグの振る舞いとかそういうところっていうのは緑地でやるような形なんですか。

【企画政策部長】 今おっしゃるとおりでございます。今年からまた緑地を使うようにしてございます。ただ安全対策等も当然のことと考えてございまして、5つのコーナーがあるんですが各2人ずつスタッフを置くとか、テントについてはあのような大きなテントを使わずに、2間、4間のテントを6張り使うといったように配慮はして緑地を使うことを

考えてございます。

【記者】 じゃ追加で、何で緑地を使うことにしたのかというのを教えてください。

【市長】 前もお話ししたかもしれませんが、もちろん教訓は教訓として、もちろんこれから生かしていきますし、ちょうど今年も有志による、二度と風化はさせずに二度と起こさないぞというそういう記念の碑も建てていただいたところでございまして、やはりそういう反省を踏まえて、立派な緑地でありますので十分市民の人、また訪れる人に楽しんでいただける場所として、これは使っていくのが逆に言えば私は亡くなられた方も喜んでいただけるのではないかなと思っておりますので、あの立派な緑地は、やはり今後とも市民の皆さん方やあそこを訪れていただける皆さん方に開放して十分緑地を楽しんでいただきたいなというふうに思います。

【記者】 ある意味、石碑を建てたことで、言い方悪いですけども決着したと。決着というか、この問題については。というか、何らかのあれが出るまでたしか自粛するというのが一番最初の話でしたよね。

【副市長】 自粛というのは当面とか、そういう意味。

【記者】 当面。自粛を解くきっかけというのが、ある意味では石碑もできて、言い方悪いけれども一段落したと。一段落というか、ある程度決着は図ったと。

【市長】 まず決着をしたとかしないというのは別問題だと考えていただきたいと思います。あくまでもやはり緑地というのは市民のものであり、観光に来ていただいた方のものですので、あの場所で起こったことは起こったこととして、しっかり先ほど言いましたように教訓としてこれから、実際もうかなりああいふ悲しい事故があってから、いろんな面での教訓には本当にしっかり生かさせていただいておりますけれども、それはその分野としてやはり大体1年を目途に、決着ではなくて一つの区切りをつけたということでご理解いただけたらなと思います。

【広報広聴課長】 発表項目につきまして、ほかにもございますでしょうか。

ないようですので、次第の3番目フリーの質疑応答に入りたいと思います。

これも最初、幹事社のほうから質問を受けます。よろしく申し上げます。

【記者】 極曲のごみについて聞きたいんですけども、この前の県議会でこの話が代表質問で出まして、そのときに県側が三者協議に出席しないということについて、8月10日に河瀬市長と面会してその点についての理解をいただいているというふうに県が答弁しているんですけども、まずこのことについて事実関係を市長からちょっと説明してもらえますか。

【市長】 確かに説明に来られましたけれども、私どもとすれば実は要望を申し上げました。ぜひ県の皆さん方もそういう協議の場に出ていただきたいということでお願いしましたときに、部長のあのときの答弁も同じだったんですけども、やはり私どももそういうことがあれば出ることは決してやぶさかではありませんよというお話をただけであって、県がなぜ出ないのかどうのこうのという話で了解したことはないということを私、たしか議会の冒頭に、一般質問の一番最初に、実は質問はいただいておりますけれどもということでお話をさせていただいたとおりでございまして、今後は恐らく県議会で答弁のとおり、やはり極力早く出ていただいて、搬入した団体の協議会の皆さん方とともに県の立場の中で応援をしていただきたいなというふうに思っております。そういう形で進んでいただけるんじゃないかなというふうに期待をいたしております。

【記者】 ということは、この前第1回がありましたよね。結局あれについては、県が出ないということは市としてはどういうスタンスなんですか。1回目はもう出なくてもいいということになっていたんですか。それともそうではなくて、そこどころがどういうやりとりで結局二者協議になったのかというのがちょっと曖昧なんですよ。そこをちょっと教えて欲しいんです。

【市長】 また詳しく言いますけれども、やはり協議をせっかく開くことに決まったものなんですから、日程で、もし県の方に出てください、いや、うちは今都合がつかんとか言うるときに、こっちがじゃ日をずらして、また調整が整うまで待ちますと、その第1回目の会合が遅れますので、それは要望として出させておりましたけれども、まず確かに県も、まず当事者の話であると。要するにお金の2割の内の中の、また環境省の指導によっ

ただいた分の話し合いでありますから、結果としてこういうことになりましたということで報告をすればいいということで、県には来て欲しかったんですけども、今のところ出れないという話であったので、それをじゃどうしても出るまで開けないということによって、またせっかくのいいチャンスがどんどんずれてしまうという可能性がございますので、第1回目の会合はさせていただいて、それなりのご報告を申し上げましたけれども、搬入自治体として、やはり持って行ったことは悪かったなというような言葉もいただき、そして私どもも払っていきたいという話になったわけでありまして、第1回目の会議は大きな成果があったものだというふうに思います。例えば金銭的については、県がそこに入って、何割県に入るとかそういう話は確かにないことは事実です。

【記者】 ただ敦賀市のスタンスとしては、やっぱりあくまで県は当事者で、三者協議には当然出席すべきだというスタンスなんですよ。だけどこの前は実際二者協議であって、しかも県が出ない理由というのが、はっきり言ってもうそれが言質のようにとられているんですよ。実際に。要は8月10日に、もう市長との間で県は今回出ませんよということが、ある意味市長との間で合意もしていますしということと言質みたいにとられているんですよ。やっぱりそこはもう少し強くしっかり県に対して、ちゃんと出てくださいというある意味ね言質というか、その辺をとってくるべきじゃなかったのか。少なくともこの前の県議会を見ている限りでは、うちが出ないということは敦賀市さんも納得していますよというそういう感じの答弁だったんでね。

【市長】 だから私はそれを見て、えっと思って冒頭にお話ししたんです。例えばそこに誰かがいらして、そのやりとりを聞いていて、おかしいよと言ってくれる人がいる。私どもは担当が出ていましたけれども、みんな、えっというような話になりましたから、それは県が少し、新聞の文面だけとらえるとなりますけれども、細かい話までは見ていませんけれども、恐らく何かのニュアンスの取り違いかなどという気もしているんですけども。

【記者】 じゃ2回目以降はどうなるんですかね。

【市長】 2回目以降、もちろん今県議会のほうでも質問があったように参加して欲しいということで要望はしていきます。県も出ることはやぶさかでないと言っておりますから、もし日程が決まれば、こういう日程で行いますのでお願いしますという形でいきたいなと思います。

【広報広聴課長】 それでは、フリーの質問、各社に質問を受けたいと思います。質問のある方は挙手をお願いいたします。

【記者】 敦賀原発1号機の例の延長の問題なんですけれども、表明から1カ月くらいたって、議会も経てきましたけれども、当然県との打ち合わせはあると思うんですが、市の側の判断としての了解するの可否かというのは、少しは前進してきたなという感じはありますか。あとどういうことを、手順を踏めば決断に至るのかなど。

【市長】 この延長ですね。40年超えの延長でありまして、これも大体40年ぴったり来るのは来年の3月14日、日でいうと14日がちょうど40年を超えるときです。それまでに例えば正式にまだ言ってきていないと思うんですね。まだ日本原電さんも、例えば正式に40年を運転しますよということはまだ言ってきていませんから、正式に来年必ずやるというような。

たしかそうやな。

【企画政策部技監】 日本原電1号機の延長の件ですけども、日本原電さんのほうから延長したいというふうに言ってきております。

来年の3月をもって40年を超えますので、それを超えて運転するときは国に対してのいろんな申請をしなきゃいかん。その認可はすでにおきています。その結果を受けて日本原電さんは9月3日ですか、延長したいと言ってきています。ということです。

【記者】 それを受ける形で県、市は、どうぞとはまだ言ってないわけじゃないですか。それはいつかのしかるべきタイミングであるのかなと思うんですけども、それに向けては、例えば前も議会の答弁なんかでも地域の理解を得ることと。

【市長】 これは議会で答弁させていただいたとおり、やはり地元の皆さん方に理解いただくことが大事でありますから、それで今個別にずっと回られて、説明も大体終わったというふうに聞きました。そういう点ではそれぞれの皆さん方も理解された方もいらっしゃる

るし、分かんないやという方もいらっしゃるかもしれませんが、そういう理解活動はある程度進んできたというふうに思っております。安全確保については国のほうから出ておりますので。

そうなりますと、まだあと1点少し残っている部分もあるかなというふうな気はするんですけども、その辺についても今、国のほうでいろいろ予算のいろんな見直しを一からやり直しているというような状況もありますので、やはり国の対応なども少し見ていきたいなと思います。最終的には、やはり県と歩調を合わせて判断をしたいなというふうに思っております。

【記者】 前回、総選挙が終わったばかりのときに、民主党の方にはまだお会いできていませんと言っておられました、その後お会いできたのでしょうか。今後会われるご予定はできましたでしょうか。関係はどのようになったのか。

【市長】 もう2回お会いさせていただきました。1回目は福井県市長会ということで訪問させていただきましたし、さきおとついは、ちょうど全国の道路関係の国民運動推進委員会というのがありまして、私は委員長が当たっているものですから、委員長という立場で地元の先生方に要望活動をしてこいというようなこともございまして、ちょうど松宮先生も部屋にいらっしゃいましたので、お願いをしてお渡しをしてみました。

【記者】 関係のほうは。

【市長】 関係は、私はいつものとおり、先生いつもありがとうございますということを言っておりますので。先生の表情はまだちょっと硬いかなという気はしますけれども、そのうちにまたご理解いただいて、昔のような形でおつき合いいただけるのではなかろうかなと思います。

【記者】 さっきの敦賀1号機の延長のやつで、一つだけという話になったんですけども、仮定の話になっちゃうかもしれないですけども、一つの問題クリアできないとなるとだめよと話になっちゃう可能性もあるということなんですか。

【市長】 ただ今回のやつは安全協定上どうの、絶対強化がどうのという部分でもないところもあるんですけども、これはやはり40年を超えて運転していくという不安がゼロではないわけでありまして、そういう点でぜひ国としても。それと私もいつも言っていますけれども、40年超えというのは私どもは一番最初ですが、何年かたってくると必ずそういうところが出てくるんです。今30年のところは10年たてば嫌でも40年を迎えるわけでありまして、そういう観点から先例ということになるわけでありまして、やはり国としてどういう対応をするかなんということは極めて大事な部分かなというふうに思っています。

【記者】 話変わりますけれども、民主党政権になって今、未執行予算の見直しをやっていると思うんです。敦賀市において未執行予算、何項目でどのくらいあるかというのは出ていますか。それに対応するようなものを。あるとしたらどのくらいの金額なんですか。

【総務部長】 基本的には未執行予算というのは、今の補正予算の関係ではほとんどまだ執行しておりません。金額をここには持ってきておりませんが、その中で今ストップをかけるというようなことでの連絡があったものもございません。今後それぞれの執行する前に、それぞれの確認をしながら執行していきたいということで考えております。

【記者】 ちょっと今の話で関連なんですけど、よその自治体さんでICT関連についてストップがかかったというふうな話を伺ったんですけども、敦賀市さんにはまだそのあたりは届いてないんですか。

【総務部長】 ICT関係につきましても敦賀市のほうはまだ執行しておりませんので、まだそれを絶対してはだめだよという、そこまでの話も来ていません。

【広報広聴課長】 ほかに質問ありますでしょうか。

ないようですので、10月の定例記者会見これにて終了させていただきます。

ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後2時4分 終了